

●聞き書きに参加して

## ●聞き書き参加者

### ○藤原杏里（兵庫教育大学3年生）

私の家は一応田んぼを所有しているのですが、私が物心ついた頃から他の農家さんに田んぼをお貸しして作ってもらうようになったので、農家のことはほとんど知識がありませんでした。そんな中、今回、藤原進さんのお話を聞かせていただくということで、少しの緊張と期待を持って臨ませていただきました。

今回、藤原進さんのお話を聞きながら、日本の農業について考えました。日本の農業従事者数は年々減ってきており、それに伴い高齢化が進んでいます。藤原進さんの話にあったように、お米を作るのならば高額な機械も必要で、天候によって収入も不安定です。また外国からの安い農産物もたくさん輸入されています。日本の農業は生き残れるのだろうか、ということを考えずにはいられません。この問題にこの場で答えを出すことはできませんが、今回のような機会がなければ私も深く考えることはなかったであろうことであるので、それだけでも聞き書きプロジェクトに参加した意味はあるなと思いました。

豊富な経験を持たれた地域の方のお話を聴くというのは私にとってとても有意義な時間でありました。将来教師となったときにも、子どもたちにこのような機会を持たせてあげることができたらどんなに良いかと思うので、そのような機会を作っていきたいと考えています。

## ○古泉啓悟（兵庫教育大学3年生）

兵庫県で生活して3年が経とうとしていますが、昔からこの地域に住み文化を守り続けている人のお話を聞く機会は初めてでした。何か調べたりするために地域の史料を活用することはよくありますが、生の声を聞くことは中々ありません。そして話の内容を文字に書き起こす作業も初めての体験でした。慣れないことばかりで不安はありましたが、サポートをしてくださった方々、私の質問に分かりやすく答えてくださった語り手さんのお陰で充実したものになったと思います。話を聞いていく中で分からない言葉や知らない方言も多々出てきましたが、それは自分と語り手さんの生きてきた環境や文化の違いによるものであり、そういった自分の当たり前と他者の当たりのギャップも面白く思いました。私は現在教育について勉強をしています。そのため、私が語り手さんにお尋ねする内容も子どもの頃の生活であったり、現在の地域に住む子どもについてであったりと教育や子どもに関する質問が無意識のうちに多かったように思います。つまり、私と違う人が聞き手になっていれば今回の内容は変わっていたのではないかと考えることもでき、この聞き書きプロジェクトは語り手の人生を明らかにしてだけでなく聞き手の経験も大きく影響していると思います。大袈裟ではありますが、自分にしか出来ない、自分だからこそ出来た内容になっていると思っています。声をなるべくそのままの言葉で文字に表そうと努めましたがとても難しかったです。しかしそのようにすることが多くの人に語り手さんの人生、考え方を伝える方法であり、もし私が要約したものであれば無意識のうちに私の価値観が入ってしまい易いと思います（今回も入っているかもしれませんが）。今回聞いたこと、感じたことを今後、様々な場面で活かしていきたいです。私は社会科を専門とした教師を目指しています。子どもたちに先人たちの生の声を伝えていくのも大人の役目だと思いますし、教師の役割でもあると思っています。聞き書きはその一つのツールであり、授業研究をする際にも行っていきたいと思いました。

## ○宮内俊輔（兵庫教育大学4年生）

難しい。

これが聞き書きを初めて体験した感想である。地域の方にお話を聞いて、それを書き起こす。簡単そうで全く簡単ではない、そんな聞き書きであった。

まず、語り手さんからお話を伺うにあたって、事前に質問を考えていたものの、実際にお話をさせていただくなかで、聞き手が思うように質問を展開できない場面が多かった。しかしながら、本来であれば、そのような話のなかで適宜質問を組み込みながら、語り手さんの話を深め、掘っていくことが求められているのではないだろうか。そのようないわゆる“話を誘導する”ということがあまりできなかったように感じる。結果として、本題である三草ふれあい交流広場の核心に迫ることができなかったのではないだろうか。

また、書き起こしについても、大変難しい作業であった。そのまま書き起こすのであればそれほど労せずできることであるが、ある種の文芸作品として仕上げるにあたって、語り手の人格を崩さず、なおかつ文章として読みやすく、ということが困難であった。実際にお話を伺って感じた語り手さんの人格をどのような表現でつたえるのか、つまり、作品集の読者に語り手のひととなりを伝えるための表現方法をどのようにすれば良いのかという点が本当に難しいものであった。

今回、東条川疎水ネットワーク博物館の聞き書きプロジェクトに参加できたことは、私にとってとても貴重な経験になった。地域のお年寄りに直接お話を伺う機会は多くない。そんな人生の先輩にあたる方からお話を伺えたことは有意義なものであった。また、今後教員として、地域住民から聴き取りをおこなったり、調査先で様々な方からお話を聞いたりする機会もあるだろう。そのようなときに今回の聞き書きを役立てることができればと考えている。

## ●聞き書きプロジェクト参加者

## ●聞き書きプロジェクト参加者

<2015年>

### ○語り手

内藤正克（株式会社内藤設計相談役会長）

藤原 進（東条山田錦振興会会長）

### ○聞き手

鈴木朝道（神戸大学大学院生）

渡辺幸太（兵庫教育大学大学院生）

藤原杏里（兵庫教育大学3年生）

### ○協力

南埜 猛（兵庫教育大学 大学院学校教育研究科 教授）

<2016年>

### ○語り手

針木 功（西戸百石踊り保存会会長）

三村良三（県民交流広場「三草ふれあい広場」事務局長）

### ○聞き手

古泉啓悟（兵庫教育大学3年生）

宮内俊輔（兵庫教育大学4年生）

### ○協力

福井茂樹（兵庫教育大学 副学長）

吉水裕也（兵庫教育大学 大学院学校教育研究科 教授）

### ○事務局

山際 丈（兵庫県 北播磨県民局 加古川流域土地改良事務所 農村計画第2課  
東条川疏水ネットワーク博物館 担当）

弘中文子（兵庫県 北播磨県民局 加古川流域土地改良事務所 農村計画第2課）

阿部一枝（兵庫県 北播磨県民局 加古川流域土地改良事務所 農村計画第2課）

株式会社地域計画建築研究所（アルパック）：

畑中直樹（役員 大阪事務所副所長 部長（サステナビリティ マネジメント））／森野真子（研究員）

**地域の人生をほりおこす  
聞き書きプロジェクト 2015～2016 作品集**

平成29(2017)年3月 発行

編集・発行 東条川疏水ネットワーク博物館会議

問い合わせ 東条川疏水ネットワーク博物館会議事務局

(兵庫県北播磨県民局 加古川流域土地改良事務所内)

〒673-0423 兵庫県三木市宿原字寺ノ前70番

電 話 0794-70-7006

E-mail kakogawatr@pref.hyogo.lg.jp

U R L [http://web.pref.hyogo.lg.jp/nhk08/toujyougawasosui/10\\_hakubutukan.html](http://web.pref.hyogo.lg.jp/nhk08/toujyougawasosui/10_hakubutukan.html)